

ちよっと ひといき... 茶ぐわくゆんたく

154



佐真下の松のある風景

上の写真は1970(昭和45)年に現在の佐真下公園付近で撮影したもので、2本の松が印象的です。この松は、かつて佐真下を通っていた亘野湾並松の一部です。並松のほとんどは戦争で姿を消しましたが、このように残ったものもありました。写真中央に見える四角い建物は嘉数中学校の校舎です。この嘉数中学校の校門前にも松が残っていました。

下の写真は現在の佐真下の様子です。静かな住宅街になっており、近くに沖繩



▲松の残る佐真下の風景 1970(昭和45)年 『写真集ぎのわん』より



▲現在の佐真下公園周辺 2017(平成29)年2月撮影

国際大学もあるため学生用のアパートも多くみられます。道の周辺は宅地として開発され、嘉数中学校まで見通すことはできなくなりました。また、わずかに残っていた並松もすべてなくなってしまいました。しかし現在の佐真下公園やその周辺には、まるで並松のあった時代を懐かしむかのように松が植えられています。現在の松のある風景はきちんと守って残していきたいものですね。

【問合せ】

市立博物館 ☎870・9317

其の30

ぎのわんの 歴史・文化遺産を歩く

はじめに

今月は、昨年十二月に喜友名地区で実施した緊急発掘調査の成果について速報としてご報告します。緊急発掘調査とは、開発工事によって壊されてしまう遺跡を事前に調査し、遺跡の情報を詳細に記録して後世に残していくことを目的としています。

遺跡の内容

今回調査した地点は、喜友名貝塚と喜友名グスクの範囲に含まれています。両遺跡は、喜友名バス停留所一帯に広がる先史時代〜グスク時代相当の遺跡として知られています。喜友名グスクは過年度の開発工事等によって大半が壊滅したとされています。しかし、今回の調査の結果、グスク時代(八百年前〜四百年前頃)の遺構(柱の跡や掘り込み)が八十基程度検出されました。また、当時の生活雑器である中国産陶磁器(青磁や褐釉

陶器など)が出土した他、石斧や銭貨、獣魚骨などの食料残渣が確認されています。

当初、喜友名貝塚の一部かと想定していましたが、今回の調査結果を見ると、喜友名グスクに関係する資料ではないかと推測されます。その根拠としては、グスク時代相当の柱の跡などが比較的密集して確認されたほか、出土した陶磁器の内容に青磁盤などの大型製品が見られることなどが挙げられます。

もしかすると喜友名グスクの権力者(当時の支配者階級)またはそれに近い親族や家臣などが居住していた場所ではないかと期待されます。今後、調査成果を整理して発掘調査報告書を作成する予定です。

【問合せ】文化課 ☎893・4430



青磁(碗)



柱の跡



調査状況